



小泉八雲を生かした 文学教育と文化資源化 への取り組み

Lafcadio Hearn as Literary and Cultural Resources

宮澤 文雄 (MIYAZAWA Fumio)

法文学部 言語文化学科

英米言語文化研究室

概要

小泉八雲ゆかりの地のなかでも、松江市は八雲の史跡・資料・機会に恵まれています。それらは「**ここにしかないもの**」ですが、その学びや活用は十分ではありません。発表では、それらを「**ここにしかない学び**」につなげていくために取り組んできた授業例を紹介します。また、発表者が運営にかかわる市民交流型の島根大学ラフカディオ・ハーン研究会の学生たちと一緒に取り組んでいる正課外活動についてもご紹介します。

1. ここにしかないもの： 史跡・資料・機会とその課題

■ 史跡

小泉八雲旧居、松江大橋、宍道湖、月照寺、大雄寺など

■ 資料

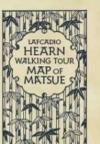
一次資料：直筆原稿、書簡、初版本、生前の愛用品など

二次資料：研究論文、評伝、新聞記事、雑誌、二次創作など

■ 機会

小泉八雲記念館、市民講座、観光、イベント、商品化など

「ゆるんさんの松江まちあるきマップ」より



市街地



小泉八雲記念館
 充実の展示で八雲の生涯を知る
 小泉八雲旧居の西隣に、昭和9年(1934)開館。直筆原稿や初版本のほか、愛用の机・椅子・衣類などの遺愛品を中心に二百数十点を展示している。ライブラリーも充実している。向かいの塩見繩手公園には、八雲の胸像がある。
 地図: A-b ▼ 有料



小泉八雲旧居
 あこがれの待屋敷と日本庭園
 八雲は、松江に暮らした最後の5ヶ月間をここで過ごした。この家の日本庭園から着想を得て、「日本の庭」を執筆する。当時の所有者だった根岸家の尽力によって、八雲が住んだ当時のま残されている。国指定文化財。
 地図: A-b ▼ 有料



城山稲荷神社
 キツネは城山の守り神 八雲はこの神社を好み、よく立寄った。奉納されていた二十以上の石狐に興味を持つ。門前にあった、耳の欠けた大きい石狐は特に気に入った(現在は門内に移設)。また、神社の火除けのお札を、イギリス・オックスフォード大学のピットリヴァーズ博物館に送っている。
 地図: A-b⑦



松江城
 城下町のシンボルは教師生活の舞台地
 八雲は学生と天守閣に登り、落日に照らされた穴道湖や、湖面に浮かぶ嫁ヶ島の優美さをめめた。天守閣のことは「大きな塔」と呼び、「大きな怪物を寄せ集めてつづいた龍のようだ」と評している。
 地図: B-b⑥ ▼ 天守は有料



普門院
 怪談「小豆磨ぎ橋」の舞台
 八雲は自宅に普門院の住職を招いて会食をし、普門院が舞台の怪談「小豆磨ぎ橋」を知る。
 地図: B-c③ ▼ 茶室は有料



見守稲荷神社
 子供の成長を願う
 八雲は見守稲荷神社の願掛けの絵や文に興味をもって、よく訪れた。この神社では、子供の直したい病気や悪癖を、母親が絵や文に描き奉納した。現在も子育ての神社として、市民から信仰を集めている。
 地図: A-c④



月照寺
 松江藩主の菩提寺
 八雲が一番好きだった寺
 八雲の妻セツ(1868-1932)によれば、「一番好きです。私もここに埋めて欲しい」と語ったという。境内には大亀の石像があり、夜な夜な隣の蓮池に飛び込み、市中を暴れまわったという伝説を紹介している。
 地図: B-a④ ▼ 有料



大建寺
 怪談「胎を買う女」の舞台
 「胎を買う女」は、死んでまだ体の温かいうちに埋められ、墓の中で赤ん坊を生んだ女が、幽霊になって胎を買いにいき、子を養っていたという物語である。八雲は、母の「愛は死よりも強い」と話の終りを結んでいる。
 地図: C-a⑤



島根県尋常中学校/果庁跡地
 英語教師へん先生の勤務先
 八雲が英語教師として教鞭をとった島根県尋常中学校は、現在の県警察本部庁舎の位置にあった。彼を招聘した島根県の果庁はその真向かい。八雲はここで教師体験を、吹米の教育とも比較し、つぶさに記している。
 地図: B-b①



第一の宿・富田旅館跡
 『知られぬ日本の面影』に登場する松江の朝の風景 八雲は明治23年(1890)8月30日に船で松江に到着し、この宿に逗留した。宿での最初の朝、松江大橋をわたる下駄の音や水面に映る霞が風景など、松江の第一目を「神々の国の首都」に印象深く書き残している。
 地図: C-c②



源助柱記念碑/大庭の音石
 人柱の伝説と動かせなくなった石
 松江大橋をかける時、難工事のため、源助という男を人形御供(人柱)にしたと伝えられている。大庭の石は、松江城に運ばせようとした時、ここで非常に重くなり、動かなくなったとされている。彼を乗せた汽船はこの付近に到着した。
 地図: C-c③



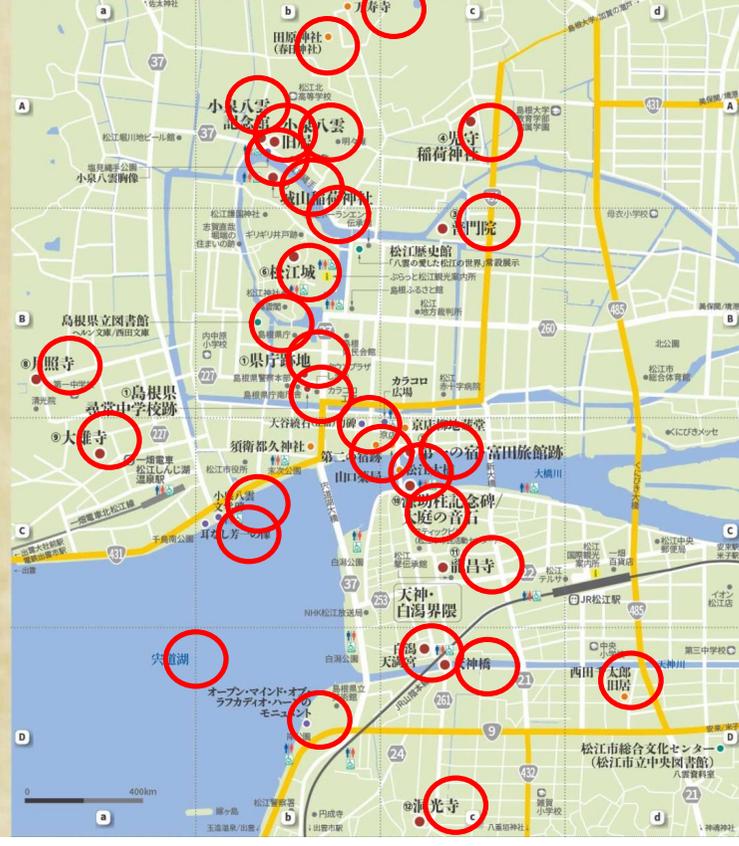
龍昌寺
 お気に入りの十六羅漢と荒川亀齋の地藏菩薩
 八雲は寺町の散歩を好み、とくに龍昌寺にある十六羅漢像を気に入っていた。また、この寺の墓地で、彫刻家、荒川亀齋(1827-1906)が作った地藏を見つけたとされている。彼を乗せた汽船はこの付近に到着した。
 地図: C-c④



天神・白濁界隈
 お気に入りの散歩エリア
 天神橋を渡り、お気に入りのそば屋から夕日を見るのを楽しんだ。著作の中で、子供を亡くした母親が、日没後の漆黒の水面に、地蔵が描かれた白い小さな紙を川に流す姿を、印象深く書いている。白濁天満宮を中心に天神町、白濁本町は、八雲が好んで散策をしたエリアのひとつ。
 地図: C-c、D-c



洞光寺
 松江の朝を知らせる鐘の音
 月照寺とともに八雲が気に入った寺院で、この寺の鐘の音は、「知られぬ日本の面影」の冒頭に登場する。病没した教子の追悼の法会が本堂で行われ、「英語教師の日記」からも詳しく記している。イギリスの有名な旅行ガイドブックにも掲載を薦めた。
 地図: D-c⑤



● マップに解説を掲載している小泉八雲ゆかりの地(番号は「小泉八雲ゆかりの地」看板の通し番号) ● その他小泉八雲ゆかりの地
 ● 小泉八雲に関する展示を行う施設または小泉八雲に関する資料を所蔵する施設 ● 小泉八雲に関する記念碑 ● 公共トイレ ● 車いす対応トイレ ● 観光案内所 ● 学校 ● 国道 ● 県道 ● 鉄道駅

八雲ゆかりの場所がこれほど現存するのは松江しかない

1. ここにしかないもの： 史跡・資料・機会とその課題

豊富な文化資源があるにもかかわらず・・・

地域 ▶ 住民の関心はそれほど高くない

大学 ▶ 「へるん入試」をしているのに学ぶ機会がない

課題：いかに理解の裾野を広げ、文化の担い手を育てるか

2. ここしかない学び：授業実践例

八雲を取り上げている授業一覧：

- ①教養育成科目「死と人間」（授業回数：2回）
- ②言語文化学科初年次教育「言語文化入門I」（1回）
- ③専門教育科目 法文学部「アメリカ文学応用演習I」／
教育学部「英米文学AII：概説」（14回）
- ④特別研究（毎年1、2名が小泉八雲をテーマに卒論を執筆）
- ⑤大学院の授業（留学生を含む）（3回または14回）
- ⑥小泉八雲をテーマとする修士論文の指導（継続中）

その1
教養から専門まで

その2
学部・学年横断的

その3
学びが特別研究、
大学院進学に発展

2. ここにしかない学び：授業実践例

■教養育成科目「死と人間」の担当回

八雲作品を通して東日本大震災を考察

八雲の現代的な意義を知る

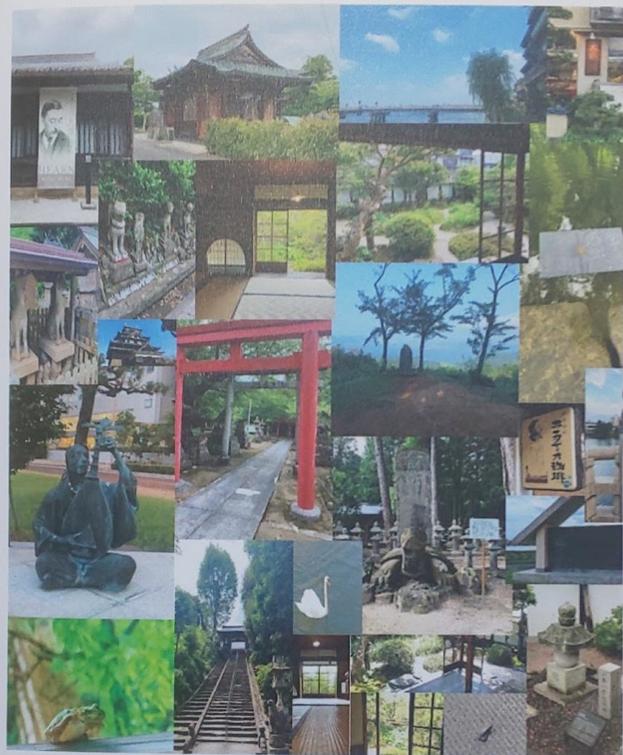
■専門教育科目「アメリカ文学応用演習Ⅰ」

松江を描いた作品の講読、記念館・旧居の見学、ミニアルバムの製作

フィールドワーク
製作
実物資料

■大学院の授業(留学生を含む)

原文講読、直筆原稿の分析、記念館・旧居の見学、出雲大社等の訪問



小泉八雲の風景を探して

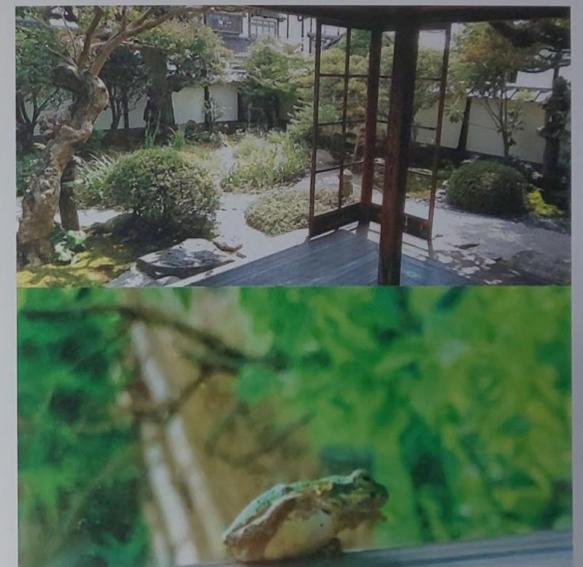
2022年度アメリカ文学応用演習I・英米文学AII/概説
製作/法文学部生9名・教育学部生7名



小泉八雲記念館／遺髪塔——八雲の人生が記録された場所。人生そのものが物語に反映されているから、家族愛や母子愛が物語に現れるのだろう。彼の人生を知れば知るほど作品の本当の意味に近づけるかもしれない。

企画展「虫の詩」——八雲は生まれ変わったら虫になりたいと言っていたという。

6

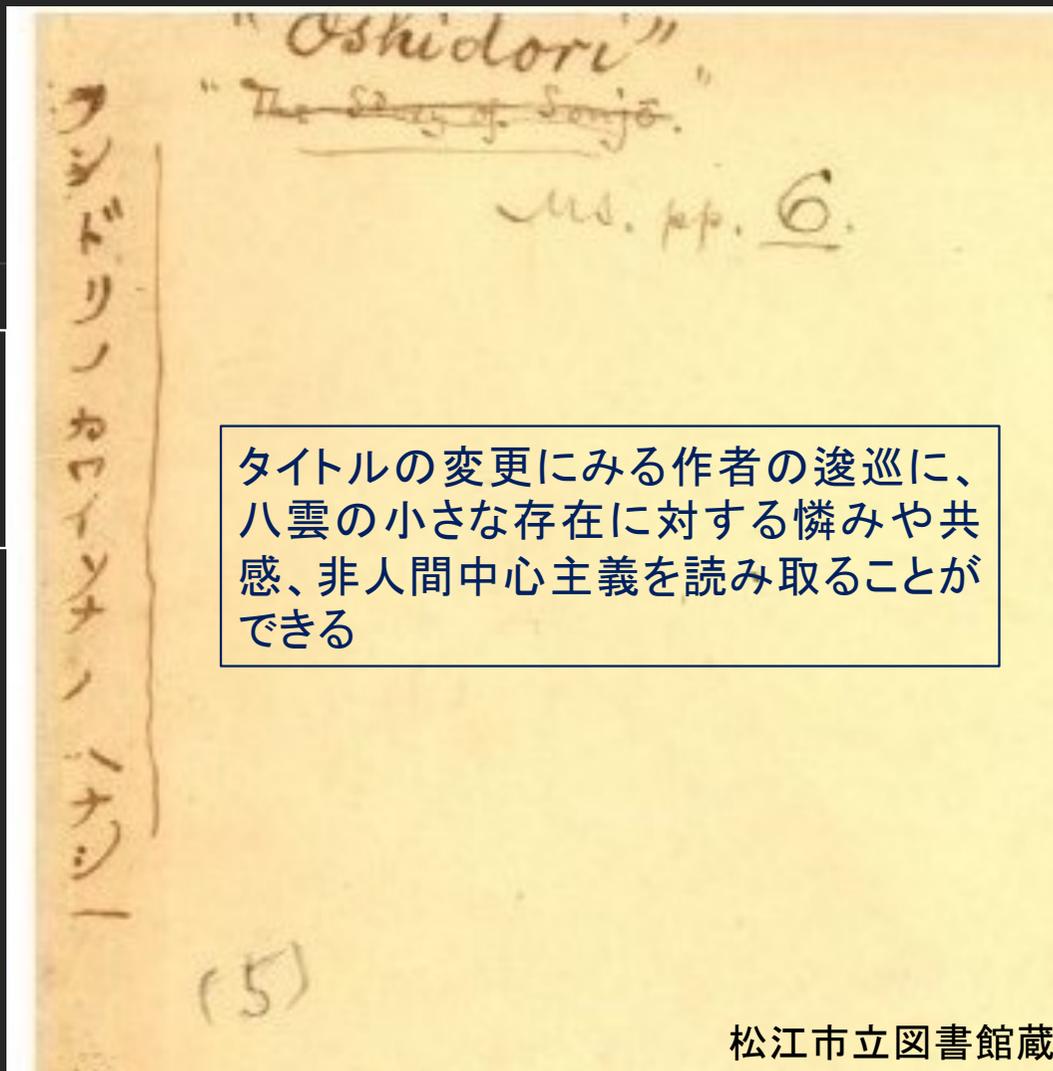


小泉八雲旧居——豊かな自然に囲まれ視覚的にも涼しさを感じられる空間。挨拶するように足元に庭の葉が舞い込んできた。かつて八雲は蛇が蛙を食べないように縁側に肉を差し出したといわれる。八雲も感じたはずの緑の匂いや戸が揺れる音とは対照的に、車の音が聞こえる。当時と現在の二重写し。

7

フィールドワークと製作の一例(授業成果物)。テーマは「いまの松江に八雲が見た風景を探す」。

その2
「ヲシドリノカワイソナノハナシ」
はタイトル候補というより作者
の物語に対する印象に近い



タイトルの変更に見る作者の逡巡に、
八雲の小さな存在に対する憐みや共
感、非人間中心主義を読み取ることが
できる

その1
最終的にタイトルを“The Story
of Sonjo”（男または人間の物
語）から“Oshidori”（女または自
然の物語）へ変更する

2. ここにしかない学び：授業実践例

史跡・資料・機会の積極的な活用による学習効果：

- (1) フィールドワークと製作の導入で、学びの質的变化が生まれた
- (2) 対象との多様なかかわりを通して、学生と対象の関係が深まった
- (3) 五感や想像力を駆使した理解は、柔軟な見方や個性が反映された
気づきにつながった

この結果、

その後の授業では、**学生はみずから学びを深めていくようになる**

2. ここにしかない学び：授業実践例

「ここにしかない学び」とは・・・

教員が提供するものではなく、

学生自身が手応えのなかで育むもの

と考えるようになりました

3. 文化資源化への取り組み：ハーン研究会の活動例

【従来の活動】（H18～）

- ① 月例読書会（通算165回）
- ② 『ニューズレター』の発行（年2回）
- ③ 講演会の開催（年1回）

【学生部による活動】（R3年～）

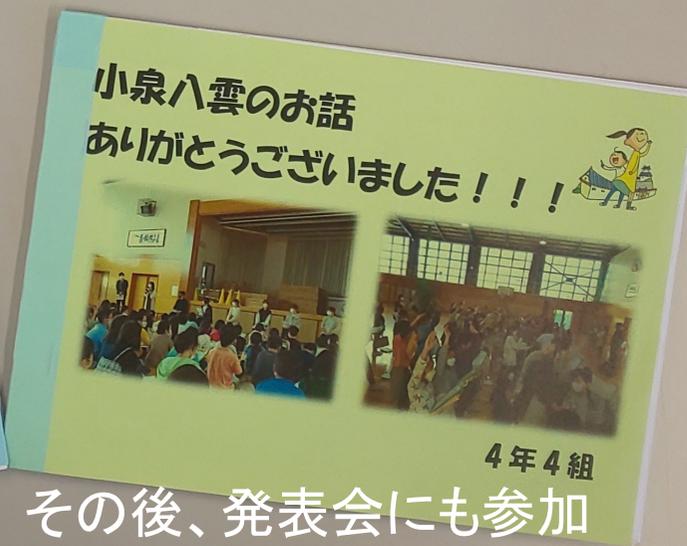
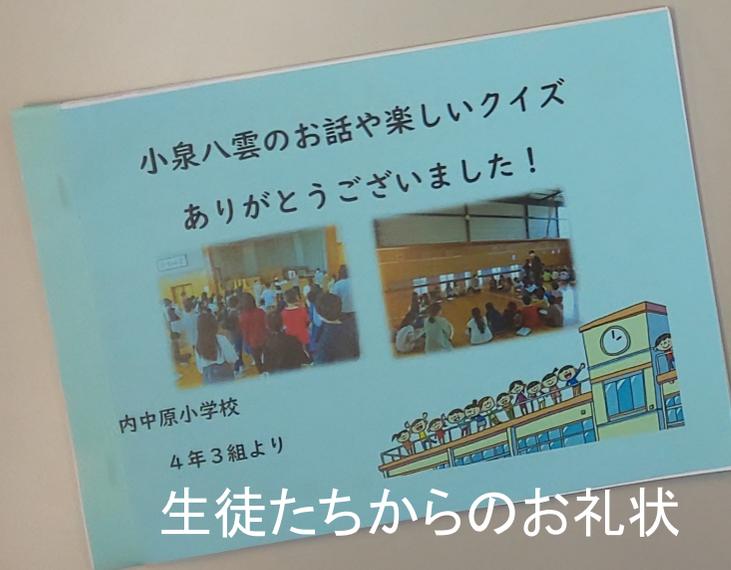
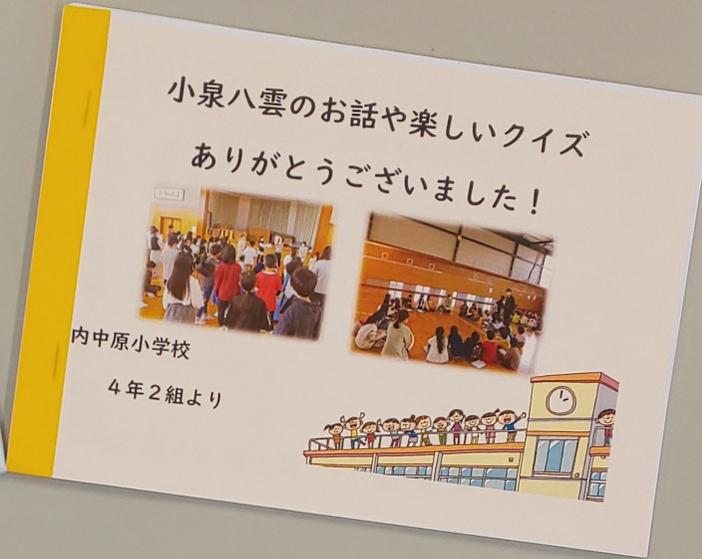
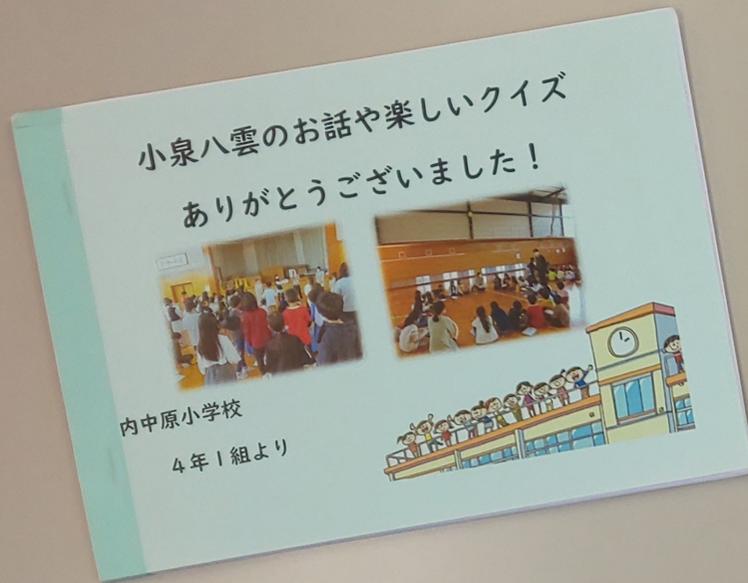
- ④ 日めくりカレンダー「日めくりへるん」の製作
- ⑤ 内中原小学校への学習支援
- ⑥ 附属図書館企画展示への協力
- ⑦ 「小泉八雲の『怪談』を観る会」の実施
- ⑧ 松江観光協会『松江ゴーストツアー』への協力
- ⑨ 震災ドキュメンタリー映画の上映
- ⑩ 宮城県被災地でのフィールドワーク
- ⑪ 附属図書館での企画展（R6年3月予定）



大学教育センターとの連携企画(④)
「山陰中央新報」朝刊(2022年4月27日付)にも取り上げてもらいました。



内中原小学校への学習支援(⑤)



地域団体紹介

(島根大学ラフカディオ・ハーン研究会 学生部)

「小泉八雲の魅力を広めたい!」という思いから、島根大学生が、日めくりカレンダーを製作したり、小学校の八雲学習を支援したり、いろんな企画に挑戦しています。

ご要望がありましたらご連絡ください。

市民の方を中心に読書会も行っています。毎月第2土曜 13時半から開催しています。どなたでもご参加いただけます。



連絡先

島根大学ラフカディオ・ハーン研究会事務局
690-8504 島根県松江市西川津町 1060

島根大学法文学部 宮澤研究室

☎ 0852-32-6219

✉ miyazawa@soc.shimane-u.ac.jp



附属図書館の八雲の企画展示にも参加しました(⑥)



(つづき) 奥: 学生部の活動展示 手前: 八雲の直筆書簡と翻訳文

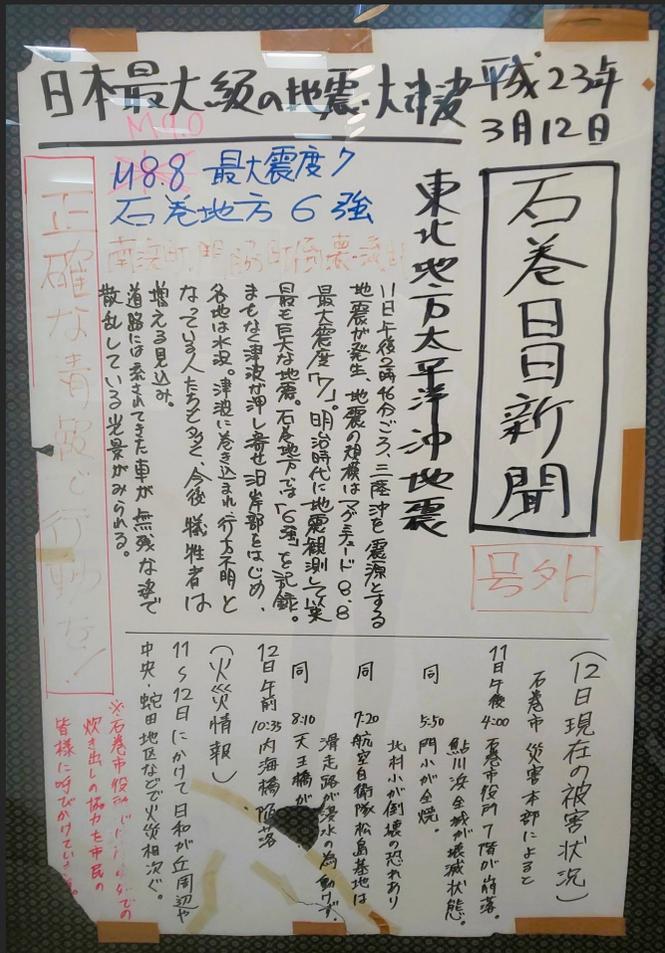
東日本大震災の被災地・石巻訪問研修(⑩)



津波火災で全焼した震災遺構門脇小学校(宮城県石巻市)



(つづき) 教室内部(震災遺構門脇小学校)



(つづき) 地震発生翌日から6日間、手書きで情報を発信し続けた石巻日日新聞社の〈6枚の壁新聞〉と平井氏による展示解説(石巻ニューゼ)



(つづき) みちのく八雲会と島大生。被災体験をお聞きしました。

4. 今後の教育活動

- ① 小泉八雲を現代的な視座から捉えた学びの充実化
- ② 日英語紙芝居の製作と実演
- ③ 本学所蔵の八雲関係史料の活用
- ④ 「八雲学」の設計
- ⑤ 史跡の活用と保存
- ⑥ 島根大学ラフカディオ・ハーン研究会学生部としての取り組み

多くの方々に支えていただきました。

心よりお礼申し上げます。